

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.38 (1999.12.15号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 2000.3.23. ; 7,[4]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

被災地発、全国のみなさまへ...“震災は終わっていません”

[阪神大震災・生活支援]

被災されたお年寄りを励ます手紙、また全国から寄せられる物資やカンパ・多くのボランティアの支えにより、支援活動が続けられていることを心より感謝します。

仮設住宅の全廃が打ち出される中、入院中の方をはじめ、自力での移転すら困難な方々が、仮設にとり残されたまま年を越そうとしています。

11月15～19日、神戸市長田区の高取台中学・トライアルウィークの生徒たちが西代仮設・長寿友の会を訪ね、私たちと共に復興住宅や病院にお年寄りを訪ねて、食事会をもつとともに、“全国文通文集”や手紙を配り、とても喜ばれました。

大阪の鶴橋小学校や松原第3中学の取り組みを通して全国に広がった文通の輪もまもなく3年、全国の学校や子供たちからは今も手紙が寄せられ、綴った文集も7集（8万部）を数えるに至りました。それに応えて、地元でも配布が始まり、同長田区・駒ヶ林中学でも、12月18日、同校での“ふれあい広場”活動で、お年寄りに手紙や文集の配布と同時に地元の小学校にも連帯を呼びかけることになりました。

支援の輪は、海を越えて韓国にも広がり、8月11日のKBS全国放映後、カンパや激励も寄せられ、京畿（キョンギ）道安山市の安山工科大学・社会福祉学科の学生により、10月15日に支援センターも発足し、同30日にはバザーを開催、11月30日～12月7日にはこちらから訪問、1月24日～29日には、学生たちが当協会を交歓訪問し、姉妹縁組も結ぶことになりました。また李方子（イパンギヤ）さんの作った明暉園（ミョンヒウォン）とも、障害児たちの作った工芸品の販売など、連帯を結ぶことになりました。

復興住宅に移られたお年寄りには例外なく、「仮設の方がよかった」と応えられます。住む箱がよくなっても孤独には勝てません。仮設が全廃される来年以降、いよいよ本格的に高齢者を取りまく、子供たちとのつながりを中心とした地域のコミュニティ作りが急がれます。“全国文通文集”の発行など、引き続き必要なカンパ・支援をお願い致します。

<鄭チョン>

[写真あり 西代仮設・長寿友の会のスタッフや地元・長田区の中学生とともに、復興住宅の高齢の方を訪問 省略]